

# 平成28年6月市議会定例会より

## 〜工藤市長の一般行政報告〜

6月10日から13日間の会期で開催された市議会定例会では、初日の一般行政報告をはじめ、6月補正予算の審議などが行われました。  
※全文は市ホームページにも掲載しています。



逆に10月からの下半期は4千人、3.1%の減少となりました。

このような状況の中、観光の誘致対策につきましては、これまでは夏季と冬季、それぞれの団体が観光対策に取り組んできたところですが、通年での観光客増加に向けた取組を強化するため、これらを一本化

### 平成27年度 観光入込客数の概要と新たな観光推進の取組について

「北海道観光入込客数調査要領」に基づき、本市の平成27年度観光入込客数は、総数5万4200人で、前年度と比較いたしますと2万1700人、4.5%の増加となり、平成22年度以来、5年振りに50万人台を回復しました。内訳いたしまして、昨年4月から9月までの上半期は、前年度比2万5700人、7.3%の増加でありましたが、

「北海道観光入込客数調査要領」に基づき、本市の平成27年度観光入込客数は、総数5万4200人で、前年度と比較いたしますと2万1700人、4.5%の増加となり、平成22年度以来、5年振りに50万人台を回復しました。内訳いたしまして、昨年4月から9月までの上半期は、前年度比2万5700人、7.3%の増加でありましたが、

近年増加傾向にあり、特に東南アジア諸国からの来訪が伸びている状況です。今後、これまで取り組んでまいりました、台湾・香港地域に加え、本年、私自身が2月に訪れたシンガポールをはじめとする、アセアン地域からの誘客対策に、積極的に取り組んでいきます。

### 平成28年度FDAチャーター便の就航について

今年度も「フジドリームエアラインズ」(FDA)には、全国各地から稚内空港へのチャーター便が就航していたいただいているところで、昨年は、全国22の空港から、約6700人の送客実績でありましたが、4年目の今年については、全国26の空港から昨年実績の2倍近い、約1万3千人を指して、今月1日の初便以降、昨日までに6空港から16便が到着しています。

また、7月からは3月に開業いたしました北海道新幹線を利用し、函館に到着



した観光客を道北地域へ送客するべく、函館・稚内間の運航も、13便計画されており、北海道新幹線効果の取り込みといった観点からも期待をしているところで、FDAの就航については、関空や中部からの季節運航定期便の再開が厳しい中、地域の観光関連業界にとって大変面白い話題ではありますが、本年度は、FDAの機材繰り等の事情もあり、運航期間は8月一杯です。今後、その定期便を拡充する取組を進めながら、さらに運航期間を拡大していただけるよう働きかけていきたいと考えています。

### 稚内空港の運営権の民間委託について

道内空港の民間化に関して、4月に、知事と道内13空港所在地の首長との意見交換会が開催されました。知事からは「道内の航空ネットワークの充実強化」と、「中核となる新千歳空港の機能強化」を基本要件とし、空港運営権の民間委託実現に取り組んでいくことが示され、今後は、国と地方の協議の場が設けられ、様々な協議が進められていくこととなります。

この背景として、国が昨年11月、2020年の訪日外国人旅行者4千万人の実現に向けて、人気の高い北海道の観光振興の底上げを図ることを目的に、稚内空港を含む、道内4つの国管理空港を一体的に運用し、機能を高め、補完し合える体制にするため、運営権を一括して民間に委託する方針を示したことがあげられます。

このたびの、国管理空港の運営権の民間委託は、かつての国鉄の民営化とは異なり、滑走路などの施設は引き続き国が所有する、いわゆるコンセッション方式によるもので、管制塔以外

の施設の運営権を一体的に委託し、民間のノウハウを活かしながら、空港の活性化を図るものです。

なお、道内空港の民間委託の中心となる、国管理4空港の地元自治体5市については、今後の民間委託の議論に向け、連携強化や情報共有を図るため、別途、今申し上げた5市による「懇談会」を設置しました。

この懇談会では、今月2日、知事に対し、懇談会設置の報告や、国の成長戦略を踏まえた訪日外国人旅行者の、北海道の受入目標とあるいは、目標達成のための具体的な施策を示していただくよう要望したところです。

知事からは、9月頃には北海道としての素案を示していきたいと、そのような回答をいただいています。

国は、今後の基礎資料とするため、現在、滑走路などの施設の資産査定を進めていると伺っておりますが、本市としても、地域にとって不利益にならないことを前提に、道内航空ネットワークの強化・拡充につながるよう、この度の民間委託に、しっかりと取り組んでいきます。

### JR北海道による宗谷本線特急列車の運行見直しについて

今年3月に、JR宗谷本線の普通列車が減便になったところですが、そのような状況の中、先月には、特急サロベツ、特急スーパー宗谷について、稚内・札幌間3往復のうち、2往復を稚内・旭川間に短縮する、との報道がありました。

その後、先月24日には、JR北海道より、「現在、宗谷本線の特急サロベツや、石北本線の特急オホーツク等で使用している、キハ183系の車両の老朽・劣化が著しく、またJR北海道自体の厳しい経営状況から、全ての車両の更新は困難であり、老朽化した車両を順次廃車にし、ダイヤを見直す予定」との説明を受けたところです。

JR北海道としては、旭川乗り継ぎにつきまして、現状と差異の無いよう、利便性は確保することですが、道北と道内主要都市を結ぶ宗谷本線は、当然、生活路線として重要な交通手段であり、地域の暮らしを守るうえで、その影響は大きいと懸念しておりますし、人口減少が進む